

# 小学校単位の地域懇談会で、反対の意見が多数になれば、「小中一貫校」を止められる

藤島地域では、3つの小学校と藤島中学校を一つの学校に統廃合する小中一貫校（義務教育学校）をめぐり、地域住民の意向を把握する目的で「藤島地域小中学校整備検討委員会」が設置され、8月1日、第1回会議が藤島庁舎で開かれました。委員には、役職の17人

## 地域の決定を尊重

と学識経験者3人、公募4人を委嘱し、会長に町内会長会藤島地区区会長の萬年義憲氏、副会長に渡前地区自治

振興会長の近藤直志氏を選出しました。

## 校舎の建築年度

区分	No	役職	氏名	備考
第1号	1	藤島地区自治振興会長	齋藤 昭彦	
	2	東栄地区自治振興会長	高橋 和夫	
	3	八栄島地区自治振興会長	成田 信一	
	4	長沼地区自治振興会長	高橋 俊一	
	5	渡前地区自治振興会長	近藤 直志	副会長
第2号	6	町内会長会藤島地区会長	萬年 義憲	会長
	7	町内会長会東栄地区会長	高山 与一	
	8	町内会長会八栄島地区会長	小鷹 昭雄	
	9	町内会長会長沼地区会長	深井 耕一	
	10	町内会長会渡前地区会長	成澤 弘明	
第3号	11	藤島小学校PTA会長	阿部 貴志	
	12	東栄小学校PTA会長	渋谷 裕	
	13	渡前小学校PTA会長	浅賀 雄	
	14	藤島中学校PTA会長	星川 洋平	
	15	いなば幼稚園保護者会副会長	佐藤 泰浩	
	16	藤島こりす保育園保護者会長	齋藤 謙介	
	17	藤島くりくり保育園保護者会長	安在 堅	
第4号	18	学識経験者	渡部 敬	元藤島小学校長
	19	学識経験者	遠田 良弘	元東栄小学校長
	20	学識経験者	西脇 庸	元藤島中学校長
第5号	21	公募	今野 良和	藤島小学校校友会会長
	22	公募	太田 功	藤島スポーツ協会会長
	23	公募	百瀬 裕慶	いなば幼稚園園長
	24	公募	成澤 啓雄	渡前小学校同窓会監事

鶴岡市学校施設長寿命化計画(令和3年3月)から作成

これまで小中一貫校の推進では、小規模校の否定論や、藤島小学校の改築が遅れるなどの意見がありました。しかし、大規模校の方が不登校やいじめ、学級崩壊など、問題が大きくなっています。校舎の建築年度を調べてみれば、改築は「藤中」の後は「大山小」と「上郷小」、次に「あさひ小」、その次に「6小と藤島小」が候補に上がります。

平成大合併後は、2007年度と09年度には、1年に2校改築しています（左表）。藤小の改築は順次、日程にのびります。

## 「令和7年度から全市で」は撤回

小中一貫教育の「可否」について、市民レベルの意見は、1月29日から2月9日まで募集されたパブリックコメントで、29人から102件が提出され、反対や異論が98件と96%を占めました。

そのため、「鶴岡型小中一貫教育」は「行政計画」としては策定せず、「令和7年度から進めていく」は事実上、撤回となりました。

## 通学の悪化は「教育権」を侵害する

小中一貫校となれば、段差のない9年間で、「やり直しがきかない」「小学生から中学生へ飛躍ができない」「ネガティブな子どもが多くなる」など、マイナスの影響が多数です。教職員も多忙となり、「私を変えた先生との出会い」が薄れます。

統合に伴う通学条件の悪化で、子どもの「教育権」を侵害するとう問題が浮上します。大人の生活や地域の存続にとっても、大きな影響を与えます。パブコメで寄せられた98件の問題を、ていねいに考えていく必要があります。

# 鈴木土身 『医師不足の解決めざす住民運動』 「地域の縮小」の芽をスルーしない

秋田県鹿角市（かっく）で取り組まれている『医師不足の解決めざす住民運動』問題のカギは医療の外にある』が、8月1日出版されました。

著者は、秋田県厚生農業協同組合連合会の元職員で、鈴木土身（どみ）さん。

鈴木さんの父・鈴木文熹（あやき）さん（故人）は、庄内労働大学の関係で鶴岡とも深い関わりがありました。

著者の前著『お医者さんも来なくなる地域（まち）づくり』は、民報2020年11月8日号で紹介しました。

住民運動2冊目の本で、横山壽一金沢大学名誉教授が、「ここには地域医療のあり方と進むべき道が鮮やかに示されている。」と本の帯で推薦しています。

医師不足の解決を目指す住民運動は、2024年時点で18年を経過し、長期間続いています。

病気や医療で住民の「困った」証言を集め、地域調査をおこない、「生きづらさ」はなぜ

なのか、その解決策はどこにあるのか、「医師不足のメカニズム」を解明し、住民が望む地域医療の姿を提案しています。

「地域の縮小」に敏感になる

日本の医師は、「人口がより多い地域」により多い。

秋田県でも、秋田市に一極集中している。

それは、日本の医療政策が、「公共」から「採算重視（営利化）」に転換したことにある。

地方の人口はなぜ減ったのか。農産物自由化が促進

され、農家は故郷を離れざるを得なくなった。「地域の縮小」を感じる場面が増え、「生きる意欲」が見いだしにくくなったからだ。

私たちは、「地域の縮小」に対して、敏感になる必要がある。

地域づくりに学ぶ例として、鶴岡市の「クラゲドリーム館」も取り上げられています（62頁）。

「地域の縮小」の芽をスルーしない（見逃さない）という視点は、藤島地域の小中学校を一つに統廃合する動きにも、敏感になることと思えました。



鈴木土身『医師不足の解決めざす住民運動』問題のカギは医療の外にある』（日本機関紙出版センター）2024年8月1日・1540円（税込）

## 東田川史跡物語 「天皇陛下のためならば」 青山 崇

明治前・中期の天皇観の思想的土台を作った一人が福沢諭吉である。

『脱亜論』（明治18年刊）で、アジアへの進出を行うべしと主張

した。

アジア太平洋戦争は、戦時中は「大東亜戦争」と呼称され、西洋諸国の植民地化で苦しむ亜細亜の同胞を解放する盟主日本になると教え

込まれた。

明治27年日清戦争が始まると、戦意高揚を図る論説を発表した。

また平壤が陥落すると、福沢は、我軍の大勝利は、天皇陛下の威霊と将校以下の忠勤によるものと喜び、状況によっては清国までの進出に、天皇の出陣まで構想していたという。

明治初期の福沢は、

天皇は政治社会とは直接関係を持たず、国民の精神・軍人の心を良く把握すること。官と民の関係を良く保つこと。そして日本固有の伝統文化を保護・発展させることとしていた。ところが、日清戦争

を契機に前記のように転身するのである。そしてこの天皇像は、写真の昭和天皇時代に完成し、ほぼすべての国民が「天皇陛下のためならば」命を捧げ、野蛮なことも行なう非人間にされていた。



### 政治の私物化だよ

今の俺なら焼酎だが、南極の水が手に入ったとしたら貴方は、何に使ってみたいですか。焼酎ならどんな味がするんだろうか・なんて思うんですよ。

▲南極の水を防衛副大臣が、子どもたちにご馳走したんだと。氷のとける音を聞かせる為だとか。父兄はその水の事を知っている訳だから、俺のウキスキーにもと思った父兄はいなかったかナ・なんて。

▲今報道されている学校の前に、4つの学校でも海上自衛隊の話をし、氷がとける音を聞かせ、味見させていたようだ。その氷はもう何人分ぐらいあるんだろうか。悪い事をしてるんだったら止めるなんて言っていたから、まだまだあるんだよ。▲しかしその氷は何処に保管されて、その保

管料は？そこから誰が学校に運んだ？学習は給食の時間？それとも氷のとける音を聞くんだから理科の時間かナ。自衛隊の仕事の勉強なら社会科学でしょうか。それは何年生に教えるんだと指導要領にあるんだろうか。

▲指導要領にあるんだとしたら、全国の学校で実施しなけりゃ、学力にも経験にも差が出るじゃないノ？ それを自分の選挙区だけでやるから問題になるんだ、全国でやれば問題にならないよ。

▲そんなことは分かっています、防衛副大臣ではそこまでは出来ないでしょう。なのに、南極の水を彼が自由に扱えたのは何故なんだ。ここが最大の問題だ。副大臣の命令で動く南極調査隊じゃない。公選法だけの問題じゃない。税金を投入して採取した南極の水は貴重なもの、政治の私物化の問題だ。（石川）